

大城ひかるのベトナム

通信

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



女性の日に花を買い求める人のために、あちこちに青空花屋が出現 (Le Thi Thuy Trinh 撮影)

皆さまは3月8日の「国際女性デー」をご存じでしょうか。1975年、国連が女性の地位向上(現代では「男女共同参画社会」や「ジェンダー平等」でしょうか)を自指し制定した日です。日本ではあまり気にしたこ

とがなかったのですが、東南アジアでは広く知られ、さまざまなイベントが行われています。ベトナムには「ベトナム女性の日」というものがあります。ホーチミンが共産党を設立した1930年の10月20日に党の婦人連合会が発足したのを記念して制定されたそうです。この日は女性問題を討議する会議や表彰などが行われているようなのですが、一般的にはお祝いムードという印象で、男性から「女性の日、おめでとございます」と花や小物をプレゼントされます。もう何度も経験しているのに、「おめでとござ」と言われる違和感は毎年ぬぐえません。ベトナム女性の日に初めて遭遇した2019年のこと。珍しさから、学生に、なぜ女性の日があるのか、何をする日なの

「ベトナム女性の日」に気づくこと

か、男性の日はあるのか聞いたところ、男子学生から冗談口調で「女性の日は年に2回もある」「男性の日はない」「女性はバレンタインにもプレゼントをもらおう」「男はあげるだけ」など不満がありました。すると、それを聞いていた女子学生が一言。「残りの日は全部、男性の日ですよ」

見事なカウンターパンチに男性陣は撃沈。ベトナムは儒教の国と聞いていたので、男性優位が根強いのかと思つたものです。

ところが、生活してみると様子が違つています。技術者、実習生を問わず、「料理が趣味」という男子学生はとても多く、「週末は家族のために食事を作る」という学生や、「夕食はいつも父が作る」という家庭も少



大雨で道路と歩道の境が分からなくなったフエ・フーバイ付近 (Le Thi Ngoc Loan 撮影)

なくありません。女性同僚が出張するときには、子どもの世話のためご主人が会社を休むこともあるそうですし、いどこに専業主夫がいると紹介してくれた学生もいました。10月初めからダナンは2週間以上、大雨が続きました。あちこちで冠水や洪水が発生して通学が危険なため、学校が3日間休みになり、仕方なく子どもを会社に連れてきた人もいました。幼稚園の子どもがいる役職の女性同僚はご主人が3日間会社を休んでくれたそうです。都市圏では核家族化が進み、頼れる両親や親類がいないため、夫婦の協力が欠かせないようです。

こちらでも男女の役割は大きく変わってきているんだなあと思つた矢先のこと。会社で接客が終つた途端、ある男性社員がさつさと自分のデスクに戻ってしまいました。私たちが応接室の後片付けをしているのに目もくれないので、「女性の地位向上はまだまだか」と内心腹立たしく感じていたのですが、聞くと「急ぎの仕事があるので来客準備や片付けを頼む」と事前に言われていたそう。拙速な判断に恥ずかしくなりました。同時に父親が毎日料理をする家庭に驚いたり、仕事を優先する女性に賛辞を送ったりする自分を振り返り、自分の中に潜む男女不平等に気づかされたのでした。